

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name	開講年次	開講学期	曜日・時限
地域情報社会論 Theory of Regional Information Society	2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格	履修上の制限
2単位	講義	選択 (上級ビジネス実務士必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目			
ビジネス実務総論Ⅰ・Ⅱ、経済学			
同時に履修しておくことが望まれる科目			
技術戦略経営、ビジネスイノベーション論			
担当者に関する情報			
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館 2F (研究室4)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)	授業中に指示します
授業の概要			
①未来社会論、②ニューメディア論、③マルチメディア論などから構成される「地域情報社会論」を1.情報(化)社会論の定義、2.情報の価値、3. ICT(情報通信技術)の歴史、4. 経営情報システムの変遷、5. 電子商取引、6. CRM【Customer Relationship Management】、7. 地域情報化の基礎基盤、8. ICTを活用した地域活性化、9. 地域情報社会・事例研究、10. 地域イノベーション戦略支援プログラムの各ポイントから学習し、ICTのスキルと、その利活用を習得する。			
授業の目標			
①情報社会の価値と経営情報システムの変遷、②電子商取引と地域情報化の基礎基盤、③地域情報社会・事例研究と地域イノベーション戦略支援プログラム等の基礎知識を学習し、そのポイントを身につけられるようにする。			
授業の方法			
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、地域情報社会論に精通した、地域社会で活躍できる人材育成を目指すものである。			
学習の成果(学習成果)			
①「情報社会と情報の価値」を第三者に説明することができる。 ②「ICTの歴史と経営情報システムの変遷」を第三者に説明することができる。 ③「電子商取引とCRM」を第三者に説明することができる。 ④「地域情報化の基礎基盤とICTを活用した地域活性化」を第三者に説明することができる。 ⑤「地域情報社会・事例研究と地域イノベーション戦略支援プログラム」を第三者に説明することができる。 ⑥1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考えながら、3)自分で調べ、学ぶ、自立した学習法を身につけることができる。			
授業のスケジュールと内容			
第1回目	ガイダンス(シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等)		
第2回目	第1章 情報(化)社会論の定義 第2章 情報の価値 : どのような情報に価値があるか? / 情報と情報化、ICT、デジタル化 / サイモンの意思決定の科学		
第3回目	第3章 ICTの歴史(ICTを生かすためのスキル) : コンピュータの歴史/インターネットの爆発的普及 / 基礎スキル / データベース / データベース設計		
第4回目	第4章 経営情報システムの変遷 : 巨大な基幹系業務システム / e-Japan戦略 / u-Japan戦略 / i-Japan戦略 / EC / 「国家情報セキュリティ計画」 / cloud computing		
第5回目	第5章 電子商取引 : ビジネスモデル / (Electric Commerce)電子商取引の課題等 / SCM【Supply Chain Management】 / SCM:需要と供給のマッチング		
第6回目	第6章 CRM : 定義と利点 / one2oneの意味 / SFA (Sales Force Automation) / CRMの課題 / グループワークによるプレゼン(1)		

第7回目	第7章 地域情報化の基礎基盤 : 地域情報プラットフォーム / 地域情報プラットフォーム施策体系 / 地域情報プラットフォーム背景 / 地域情報プラットフォームのイメージ / ASP、第8章: ICTを活用した地域活性化 :		
第8回目	第8章 ICTを活用した地域活性化 : 地域情報化アドバイザー / ICT地域マネージャー / 戦略的情報通信研究開発推進制度 / 自治体クラウド / 自治体C10育成研修		
第9回目	第9章 地域情報社会・事例研究 : 地域児童見守りシステムモデル事業の概要 / 岐阜市地域防災 ICT利活用モデル構築事業 / ひむかスマートコミュニティー事業 / グループワークによるプレゼン(2)		
第10回目	第9章 地域情報社会・事例研究 : 鳥栖(とす)市地域子育て・市民生活サポートシステム / 雲南市地域医療ネットワーク構築事業 / 生涯学習における遠隔学習システム / グループワークによるプレゼン(3)		
第11回目	第9章 地域情報社会・事例研究 : ICTを活用した広域連携救急画像伝送システム事業 / 高齢者に優しい広域連携・CATV活用型見守りプラットフォーム構築事業 / グループワークによるプレゼン(4)		
第12回目	第9章 地域情報社会・事例研究 : 高齢者に優しい広域連携・CATV活用型見守りプラットフォーム構築事業 / 先進予防型遠隔医療を地域に根付かせるための課題 / グループワークによるプレゼン(5)		
第13回目	第10章 地域イノベーション戦略支援プログラム : 地域イノベーションの創出に向けた主な取組 : 東日本大震災復興支援プログラム / 大学等産学官連携自立化促進プログラム / 先端融合領域イノベーション創出		
第14回目	第10章 地域イノベーション戦略支援プログラム : 北大&ビジネスパーク / 長野県スーパーモジュール供給拠点 / 浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション / 福岡次世代社会システム創出推進拠点		
第15回目	第11章 地域イノベーションとスマートシティ戦略支援プログラム		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		10%	以下の3点から評価する: ①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準: 上記参加態度を全て満たす上位トップグループ。
レポート		30%	Sのレポートの評価: ①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計4回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書			
小テスト		40%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価: ①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験			
発表内容(態度含む)		20%	Sのレポート発表評価: ①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他			上記評価基準に基づき成績評価: S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書			
長江庸泰作成の“デジタルテキスト[地域情報社会論 2014年度版]”を活用する。			
履修上の留意点・ルール			
本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考えながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法」を常に心掛けましょう。			